

## 【草花の部屋】

### プシュキニア（キジカクシ科プシュキニア属 *Puschkinia scilloides*）

**和名**： **別名**：プシキニア、リバノチカ、ストライプド・シラー

**英名**：Striped squill

キジカクシ目 多年草・球根 **原産地**：西アジア

**花言葉**：豊かな感性 **花色**：白



← 写真-1 プシュキニア・リバノチカ

撮影日：2024年3月14日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 プシュキニア・リバノチカ

撮影日：2024年3月14日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



郊外散策中に、プランターに咲いている小さな花を見かけました。初めて目にした花で、帰宅後、調べてみるとプシュキニアでした。

プシュキニアは、早春まだ寒さが残るころから咲き出し、ヒアシンスを小さく可憐にしたような姿と、透き通るような清楚な花色が魅力の球根植物です。

草丈10～15cmほどで、庭や花壇への植え付けの他、寄せ植えなどに利用されているそうです。派手さはありませんが、小さくて可愛らしい花は春を知らせてくれる存

在になるそうです。

葉が地中から伸びてくるのと同時に蕾が顔を出し、葉の展開に合わせて花茎が伸びてきて、ひとつの花茎に星形で白く小さな花が10個ほど、房になって下から上へと咲き進みます。性質は丈夫で、環境に合えば植えばなしにでき、こぼれ種で増えることもあります。

プシュキニアの花色は、白や白い花卉に淡いブルーの筋が入るタイプがあり、色合いは個体差があります。シラーを小型にしたような雰囲気、白い花卉にブルーの筋が入る見た目からストライプド・シラーの別名があるそうです。

プシュキニアは、いくつかの種類があるそうですが、日本では、プシュキニア・スキロイデス (*Puschkinia scilloides*) の変種で花が白地に青い筋が入るプシュキニア・リバノチカ (*P. scilloides* var. *libanotica*) の名で球根や芽出し球根が流通しているそうです。

### <ちょっと一言>

\*ヒアシンス科、ユリ科で分類される場合もあります。

\*シラー(キジカクシ科 シラー属 *Scilla*)

星形や釣り鐘状の小花が、房状や穂状(散形花序または総状花序)に咲きます。